

設計書と共に提出さ

日本案盤谷築港計畫の概要

盤谷港の位置

バンコック港はシヤム國唯一の水の大玄関で、チャオフラヤ河の左岸、河口より約20軒の地點にある。

要求されし計畫の内容

チキオフラヤ河岸に沿ひ、延長2,550米、奥行900米の地域内に、岸壁(延長1,800米以上)上屋、倉庫、道路、鐵道、荷役機械、航路標識、發電所、水道計畫、税關廳舎、水上警察、其他検査所、檢疫所(人、家畜)サイロ(穀倉)精米所、バスキユールブリツヂ、下水計畫、都市計等の諸設備を完成せしめるものである。

日本提出計畫の内容

如上の條件に依り我土木局第一技術課に於て作成せる計畫は、工事を第一期及第二期に分ち、第一期工事に於ては主として河岸を利用するもので、第二期工事に於ては第一期工事區域の北方に更に一大船渠を築造する事になつて居り、主要なる工事は次の如くである。

〔第一期工事〕

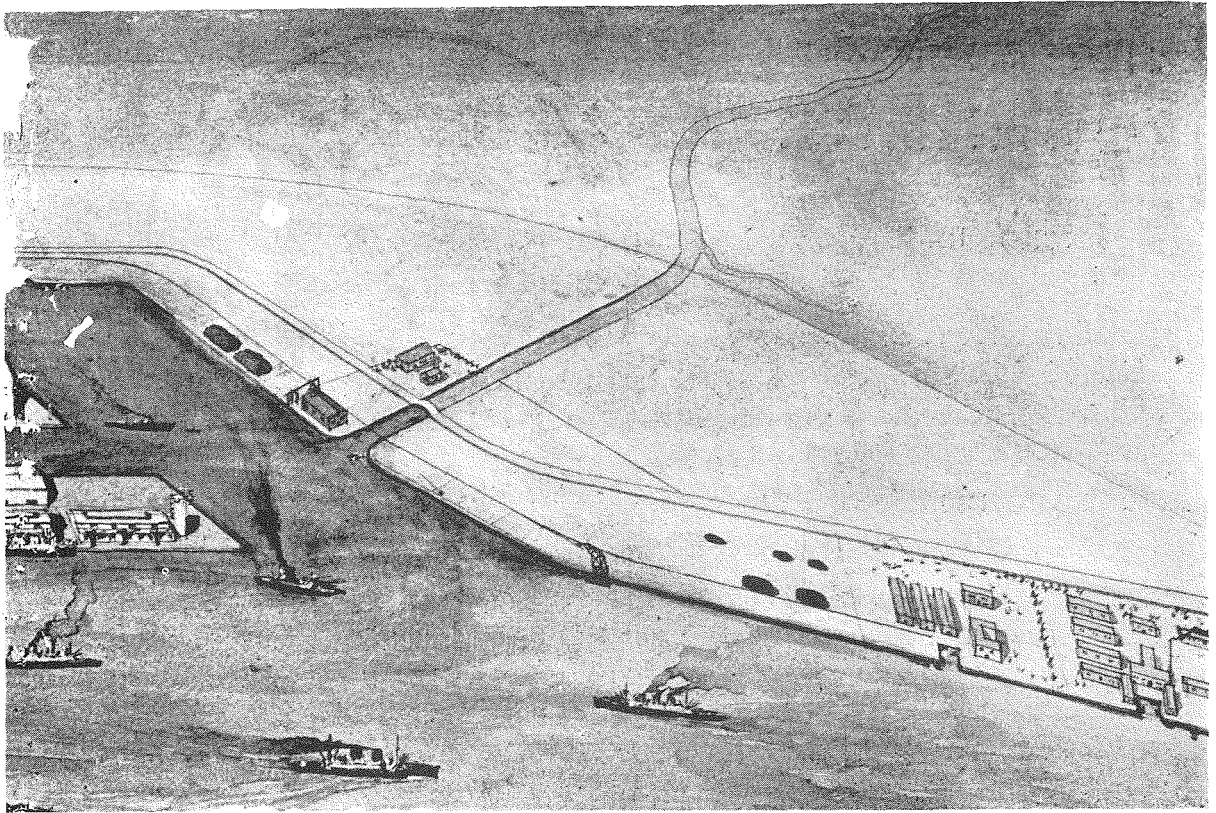
繫船埠頭 水深8米、延長1,980米、1萬噸以下12隻の船舶を同時に繫留し得る設備。

上屋 15棟、延面積122,670平方米。

荷役能力 300萬噸。

以上に要する工費 40,000,000圓。

〔第二期工事〕



れた盤谷港の鳥瞰圖。

繫船埠頭 水深 8 米、延長 1,320 米にして
6,000 噸以下 10 隻の船舶を同時
繋留し得る設備。

上 屋 12 棟。

荷役能力 200 萬噸。

以上に要する工費 1,250 萬圓。

×

これ等の原家が僅々半ヶ月の間に作成された事は初めに記した通りであるが、其設計は頗る詳細を極め、鐵道、水道、船舶及燈臺關係の計畫には夫々専門家の意見を徴し、整然と構成して、英文設計書、所要各圖面及精巧なる模型を添へて提出され、應募せる世界 21 ヶ國を斷然壓倒して第一等當選の榮冠を勝ち得たのである。思へば我國が遠く野中兼山が

浦戸灣修築の時代は問はず、明治開國の後、外人工師を聘して築港の技術を習得して以來僅々半世紀を出でずして、其技術が歐米先進諸國を制覇するに至つた事は慶賀と云はんより寧ろ驚異に値する處であつて、茲に「建設の日本」を全世界に宣揚せし本計畫關係諸氏の勞に對し深甚の謝意を表さねばならない。然して歐米諸國の大部分は本計畫の應募に先ち夫々一流の權威者を現地へ派して調査せしめ然る後設計に着手せるに反し、我國に於ては現地視察の餘裕なく僅かに蒐集せられた資料に依り急遽設計に取かゝつた事實を附記するのにも強ち蛇足ではないであらう。